

# 平成27年度 高等部 日常生活の指導グループ

チーフ：荒井・南

発表者：別府・南・荒井・宮川

## 1、グループテーマ

「清掃の時間」における合理的配慮とユニバーサルデザイン化

## 2、テーマ設定の理由

### <日常生活の指導とは？>

今年度、「日常生活の指導」研究グループでは、まず、本校高等部の教育課程において「日常生活の指導」とはどの活動時間を指すのか、について確認した。日課表表記によれば、「更衣・荷物整理・HR・給食準備・給食片付け・歯磨き・清掃」である。

また、「日常生活の指導」について、平成6年文部省（当時）発行の「日常生活の指導の手引き（改訂版）」によれば、

『日常生活の指導で終局的に目指すことは、**児童・生徒が一日の生活に見通しを持ってその時々**の日常生活の諸活動を自力で処理できるようにすることである。単に、身近生活の処理に関わる技能を高めることにとどまらず、**日常生活をより自立的・発展的に行うための生活意欲や生活態度を育てることも意図している。**』

これまで、高等部では日常生活の指導の「HR」の研究を進めてきた。そのうえで、今年度は一日の流れにおいて「**給食から午後の授業の始まりまでの時間帯の指導**」に注目した。課題として挙げられたのは

- ・昼休みと清掃時間の区切りが曖昧である。
- ・午後の授業への移動時間がバラバラである。特に学部縦割り授業の時は始まりが遅くなる。
- ・清掃そのものについても学年によって取組の違いがあり、活動の参加が難しい生徒もいる。

そこで、毎日15分間の「清掃の時間」を授業の「学び」の階層モデルに当てはめ、「参加（活動する）の階層」および「理解（わかる）の階層」における研究をすることとした。また、生徒の実態によっては「習得（身につける）」の階層における合理的配慮についても研究することとした。

## 3、グループの重点的取り組み内容

- ①各学年・学級の実態把握を行い、参加の階層においては、まず、清掃開始時間をどのように知らせ、全員が開始できるようになるか、そのための合理的配慮とUD化の事例を集め、情報を共有し実践する。
- ②各学年からモデル生徒を抽出し、実態に合った理解の階層における合理的配慮の例を報告しあい、その変容をおいかけながら、そのほかの生徒にも応用していき、評価・改

善を行っていく。

③研究にあたって清掃技術の向上を目標とするというよりも合理的配慮とUD化によって生徒のもっている力や特性を活かし本校のキャリア発達モデルに示されている力を伸ばしていくことを目標とする。

#### 4 研究の方法及び経過

##### <方法>

- ①UD化モデル参加(活動する)ができているか全クラスの清掃の様子を撮影する。日常生活の指導は活動の流れの中で行われるため清掃の前後の活動である給食から午後の授業への流れに焦点化し、参加(活動する)の工夫点を協議する。まとまった工夫点を各クラスで取り入れ、その後の変化を協議する。
- ②UD化モデル理解(わかる)については清掃の技術向上の方法ではなく、「清掃の手順を理解し児童・生徒が一人で取り組めるようになること」に焦点を当てる。清掃の様子の映像をグループ内で確認する。支援用具等を共有し、工夫点を協議する。
- ③合理的配慮については各学年からモデル生徒を1名選定する。現在の支援体制を確認し、工夫点を協議する。

##### <経過>

- 6月上旬 UD化 参加(活動する)各クラス給食後→清掃の時間にかけての映像撮影
- 6月16日 UD化 参加(活動する)各クラスの状況把握・清掃参加の工夫点の協議
- 7月7日 UD化 参加(活動する)各クラスの清掃の改善点・工夫点と成果の確認
- 9月16日 UD化 参加(活動する)指導方法の工夫のまとめ  
合理的配慮 モデル生徒の選定
- 9月下旬 合理的配慮 研究対象生徒の合理的配慮の映像撮影
- 10月8日 UD化 理解(わかる)指導方法の工夫について協議  
合理的配慮 モデル生徒への取り組みの確認・報告  
取り組みの改善点・工夫点を協議
- 11月12日 UD化 理解(わかる)指導方法の工夫点の確認・報告  
合理的配慮 モデル生徒への取り組みの確認・報告  
紀要作成、発表に向けての役割決め
- 12月18日 UD化 理解(わかる)指導方法の工夫のまとめ  
合理的配慮 モデル生徒への取り組みのまとめ  
紀要作成の進捗状況の報告
- 1月7日 紀要のまとめ最終確認  
発表方法についての確認

## 5 研究の実際

(1)清掃の時間におけるユニバーサルデザイン化の研究について＝ 参加する  
(活動する)

### 高等部1年3組の取り組み

#### 以前の状況

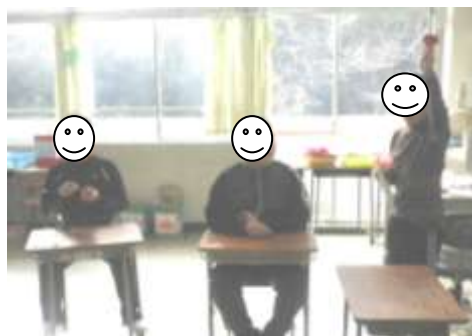
年度当初は、清掃のあいさつを行うことなく清掃を開始するといった流れだった。そのため、清掃に対して明確な見通しを持つことができない生徒は活動に取り組むことが難しいといった状態が続いていた。また、終わりのあいさつも行っていなかったため、次の授業までの休み時間としてのメリハリがつかないといった問題点もあった。

#### 改善点と変容

清掃に対して見通しを持つことができるように、清掃の始まりに生徒がベルを鳴らして全体に周知するといった方法をとることにした。そのようにすることで、生徒が清掃の時間であると意識することができるようになった。また、清掃の終わりにもベルを鳴らすことで、終わりを意識することができ、次の授業までの休み時間を有意義に使うことができるようになった。



before



after

#### 清掃の流れ

- ① 始まりのあいさつ
- ② 机・椅子移動
- ③ 教室内拭き掃除、掃き掃除
- ④ 廊下拭き掃除
- ⑤ 終わりのあいさつ



#### 課題

清掃の始まりと終わりは意識できるようになってきたが、ベル自体に興味を持ちすぎてしまっていつまでも鳴らしてしまうなどの課題がでてきている。ベルを出すタイミングを考え、使わないときはどこかに片付けておくなどの配慮が必要である。また、拭き掃除で教室の端を拭くことや掃き掃除で小さなゴミをとることは課題があり、イラスト付きの行程表を作るなどの支援が必要だと思われる。

## 高等部 2年2組の取り組み

### 以前の状況

年度当初、【 給食 ⇒休み時間（体育館、図書室） ⇒清掃 ⇒午後の授業 】という流れで清掃を行っていた。しかし、休み時間 ⇒清掃への切り替えが難しい生徒が多く、清掃できないまたは時間が十分に確保できないことが多かった。そのような状況から日によって清掃を行わなかったり、清掃内容が変わったり、生徒にとっても教員にとってもわかりにくい時間となっていた。

### 改善点と変容

「参加（活動する）」ということ考えた結果、2年2組では休み時間と清掃の時間を入れ替え【 給食 ⇒清掃 ⇒休み時間（図書室） 午後の授業 】という流れに変更した。生徒にとって楽しい活動（図書室）が清掃の後にくることで励みとなり、切り替えがスムーズになり全員参加できるようになった。以前はバラバラに行っていた挨拶、清掃分担確認等を絵や写真カードを使い全員で揃って取り組めるようになった。また十分な時間を確保できるようになったことで日によって清掃内容が変わることがなくなった。そのことで生徒の実態に合わせた分担を割り振ることができるようになり、生徒も教員も活動に見通しが持てるようになっただけでなく、同じ分担を繰り返し担当することで生徒がわかって参加できるようになってきた（教員の指示が少なくなった）。

### 清掃の流れ

- ①黒板前に集合、挨拶
- ②活動内容と清掃分担を絵・写真カードで確認して開始
- ③全員で机、椅子、長机等を廊下に出す（前のドアから出して、後ろのドアから入る）
- ④実態に合わせ教室ほうき、雑巾×3人、ごみ捨て×1人、流し磨き×1人、机拭き×1人で分担清掃
- ⑤全員で机、椅子、長机等を教室に入れる（前のドアから出て、後ろのドアから入れる）
- ⑥黒板前に集合、図書室に行くことや午後の授業をしてから挨拶



(2)清掃の時間におけるユニバーサルデザイン化の研究について＝ 理解する  
(わかる)

### 2年3組の取り組み

#### 以前の状況

①椅子上げ②掃き掃除③雑巾がけ④椅子下げの手順で清掃を行っている。椅子上げから掃き掃除への流れに上手く乗れない生徒もいる。清掃用具入れを開けるとほうきが倒れてきてしまう状況だった。

#### 改善点と変容

○ほうきの工夫について・・・清掃用具入れの整理、ほうきに顔写真とカラーを付けて自分のほうきと意識できるようにした。無作為にほうきを使っていた生徒も自分のほうきと意識できるようになり、ほうきを出したままにするといった片づけ忘れがなくなった。またスムーズに椅子上げからほうきで掃く流れに入れるようになった。ほうき、ちり取りの片づけも確実に出来るようになったため、掃き掃除の後の雑巾がけへの流れもよく理解できるようになった。

○ボードの使用について・・・清掃手順を絵カードで提示する。手順が終わるごとに終わりボックスに絵カードを入れることで、次の清掃内容にスムーズに取り組めることが増えた。



ほうきの工夫①



ほうきの工夫②



ボードの使用

### 1年1組の取り組み

#### ボードの使用による清掃の理解

以前の状況・・・清掃の流れを理解していないため、掃き掃除（ゴミ拾い）や雑巾がけ（モップがけ）に取り組むのが難しい。

改善点と変容：ホワイトボードによる手順表の活用。次の活動に入りやすいように、道具の準備をしておく。初めにホワイトボードで、手順を示すことにより清掃の始まりがスムーズになった。

やることを理解してきたため混乱することなく清掃に取り組んでいる。また、ボードを何度も確認することで次の活動にスムーズに取り組めるようになってきた。しかし、それだけでは難しい生徒もいる。なので、具体物を確認できるようにわかりやすい場所に



準備し、それを手がかりに次の活動に取り組めるようにもなってきた。モップを確認することで、生徒からも「次モップ！」という発言も出るようになった。終わるときには、モップを元の位置に戻すことで終わりということが理解できてきている。

### 3年3組の取り組み

**以前の状況**・・・朝の活動で新聞ちぎりをを行い、清掃時のゴミとして利用し生徒の意識づけを図った。清掃時は、事前にホワイトボードで各自の清掃場所を確認したのち、教室と階段に分かれて清掃していた。場所の認知はできていたが、清掃の内容や手順は、言葉かけが必要で、あまり取り組もうとしない生徒もいた。掃き掃除では、大きめの枠を床に作り、そこにちりとりを固定することで掃き集めやすいようにしていた。しかし、ちぎった新聞が平面のゴミのため、掃いたり、ちりとりに入れたりするのが難しい時もあった。また、拭き掃除に関しては、範囲があいまいで生徒に分かりづらかった。

### 改善点と変容

○ボードについて・・・清掃場所ごとに1人1人の顔写真の下に作業内容と手順を示すようにした。1つの活動が終わると、カードをはずして次の活動を確認すると、スムーズに清掃できることが多くなった。

また、変更があった場合も、カードで提示することで、切り替えがスムーズになった。

○ゴミについて・・・新聞ちぎりで作るゴミを大きめにし、事前に折り目を入れたり、ちぎった後、くしゃくしゃに丸めることで、少し立体になるようにした。そうすることで、生徒が掃きやすく、ちりとりに入れやすくなった。

また、掃くことが苦手な生徒に関しては、ちりとりの近くにゴミの固まりを作り、掃き入れやすいようにした。

○雑巾がけの目印について・・・教室や廊下の端と端にランドマーカーを置き、拭く範囲の手がかりとした。端から端まで拭く、教室の隅の方まで拭くということが以前より意識づけられるようになった。また、拭いた後、マーカーを1つずつはずしていくと、次に拭く場所や終わりが分かりやすくなり、よりスムーズに取り組めるようになった。

### 課題

手順についてはより理解が深まり、取り組みがスムーズになったが、まだ掃いたり、拭いたりする範囲が認知されにくく言葉かけも多くなりがちである。今後も改善を重ね、なるべく生徒の自主的な活動が増えるようにしていきたい。



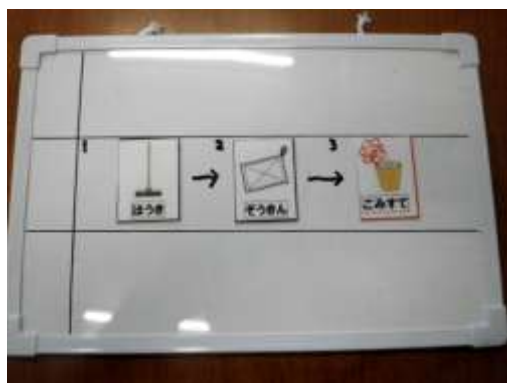
### (3)清掃の時間における合理的配慮の研究について

#### ケース1

Aさんへの支援について

該当生徒は、清掃の流れをあまり意識しておらず教員の呼びかけのもと行う様子だった。言葉かけをすることにより清掃に「参加」することができている。しかし、清掃内容を「理解」できているわけではないので、次に何をすればよいのかわからず、遊んでしまったり座り込んでしまったりしていた。そこで、手順を「理解」して清掃に取り組めるように、次のような合理的配慮を行った。

	清掃手順の理解
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一つの内容ごとに、言葉かけをしないと次の掃除に取り掛かることが難しい。</li> <li>・清掃内容を理解できていないため、清掃中に遊びや座り込みが入ってしまう。</li> </ul>
合理的配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手順を理解し参加できるよう始まりの挨拶をした後に、ホワイトボードにイラストをつけた手順書を提示し見通しをもてるようにした。(写真①)</li> <li>・次の内容にスムーズに入れるように、あらかじめ当該生徒から見える位置に用具を出しておいた。(写真②)</li> </ul>



写真①



写真②

以上のような配慮を行い、次のような変容が表れた。

	清掃手順の理解
変容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手順を理解してきたため、遊びや座り込みが少なくなり、清掃に取り組めるようになってきた。</li> <li>・用具を見ることで、言葉かけがなくても次の内容に取り組めるようになってきた。</li> </ul>

このような合理的配慮を行うことで、少しずつ清掃について「理解」ができてきていると感じられる。今後も、該当生徒にとって良い支援を行い、継続して取り組められるようにしていきたい。

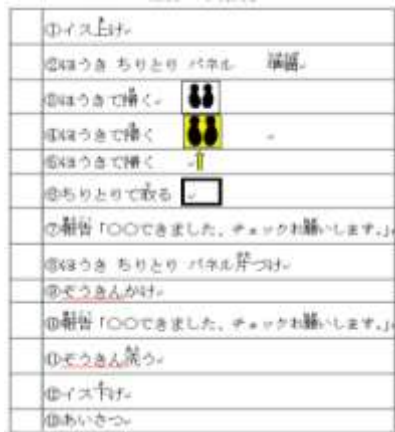
ケース2

Bさんへの支援について

実態：教員の指示を仰ぎながら清掃に取り組める。清掃方法をよく理解しているため言葉かけのみで清掃を行うことができる。自ら考えて取り組む場面が少なく、次の清掃手順に移れず、指示待ちの状態になってしまうことが多い。

目標(研究テーマ)教員の指示を待たず、自ら考え手順通りに清掃に取り組める。

清掃手順の理解	
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の指示を仰ぎながら清掃に取り組めるが、自ら考えて取り組む場面が少ない。</li> <li>・模倣が苦手なため、複雑な手順を身に付けるのに時間がかかる。</li> <li>・ゴミに注目し続けることが難しい。</li> </ul>
合理的配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人で次の手順を確認しながら取り組めるよう手順表を作成した。(写真①)</li> <li>・清掃方法を視覚化し、清掃に注目できるように支援した。またほうきの掃き方については手順を細分化し、立ち位置、ほうきの掃く方向といった視覚的な支援を増やした。(写真②)</li> <li>・清掃内容を①椅子上げ②掃き掃除③雑巾がけ④椅子下げに焦点化し、手順の簡略化を行った。</li> <li>・教員からの指示を始まりと終わりの全体指示と本人から相談があった場合のみに限定し、本人が考えて行動できるように配慮した。</li> </ul>



写真①



写真②

清掃手順の理解	
変容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員からの言葉かけなく一人で手順通りに清掃に取り組めた。</li> <li>・繰り返し毎日清掃を行うことで作業手順やほうきの掃き方を身に付けることができた。</li> </ul>

視覚化されたゴミがなく、見えにくいゴミを意識して掃き掃除を行うことは難しかった。清掃の時間だけでなく、清掃時間外でもゴミを拾うというような清掃意識を日常生活で持てるようになることが今後の課題である。



### ケース3

Cさんへの支援について

この生徒は机や椅子運び、雑巾がけ、ほうきなど、一つ一つの活動には取り組むことができ、清掃の時間に「参加」することはできていたが、「理解」までの到達は難しく、見通しがもてないと落ち着いて活動に取り組むことが難しかった。そこで、少ない支援で見通しを持って清掃の時間に取り組めるよう、次のような合理的配慮を行った。

	掃き掃除（ほうきの扱い）	拭き掃除（雑巾がけ）
課題	・床にまいた新聞紙を運ぶことはできるが、言葉かけや身体支援がないとちりとりまで到達することが難しい。	・回数など、見通しが持てずに落ち着いて取り組むことが難しい。 ・教室の端から端まで雑巾がけをしている途中で立ち上がってしまう。
合理的配慮	・立ち位置からちりとりまでの直線上に新聞紙を置き、目標を見やすくした。また、ゴミを立体的にすることでちりとり内に入りやすくした。（写真①）	・取り組む分の雑巾を並べて、見通しをもてるようにした。また、目標物としてバケツを置いた。（写真②）



写真①



写真②

以上のような配慮を行い、次のような変容が表れた。

	掃き掃除（ほうきの扱い）	拭き掃除（雑巾がけ）
変容	・言葉かけが必要な時もあるが、ほうきを一人で使ってちりとりをめぐらしてゴミを運ぶことができるようになった。	・見通しを持って一人で取り組み続けることができるようになってきた。また、目標物となるバケツを意識し、途中で立ち上がるものが減った。

このように、見通しを持って清掃の時間に取り組めるようになってきたが、少しずつ慣れや飽きが出てきてしまっているように感じる。継続して取り組み続けられるよう、今後も支援を検討していかなければならない。

## 6 まとめと今後の課題

### (1) まとめ

今回高等部の研究テーマとして『日常生活の指導』を取り上げるに当たってなぜ清掃に着目したのかは前述した通りである。あくまでも清掃を行う技能を高めるのではなく、一日の中でさらに清掃の時間の中で見通しを持ち、自立的に意欲を持って清掃活動に参加するための手段・方法を探究した。

UD化については、学びのモデルの『参加の階層』において清掃の始まりや終わり、取り組み内容の伝達方法の工夫を行い、『理解の階層』で清掃の手順を写真や絵で示す、作業内容の簡素化という様に段階を踏んで取り組んだ。また合理的配慮についてはモデル生徒を抽出し、生徒個々人のツール（専用のほうきやワークシステムの提示など）を用意することでその生徒の変容を確認することができた。

結果として曖昧だった昼休みと清掃時間の区切りが明確となり、午後の授業への移行もスムーズになった。また、ほぼ全員が清掃に参加することができるようになり、見通しを持って物事に取り組む中で、自立と社会参加に向けた意欲や態度を育てる一助となった。

### (2) 今後の課題

これらの取り組みを継続させることが第一である。清掃を取り上げるとどうしても丁寧に清掃を行うことが第一義とされてしまいがちであるが、もう一度『日常生活の指導』の持つ意義や目標を再確認することが必要となる。つまり『生徒が一日の生活に見通しを持ってその時々々の日常生活の諸活動を自力で処理できるようにすること、そして日常生活をより自立的・発展的に行うための生活態度や生活意欲を育てる』という終局的に目指す場所を共通理解し、その上で日常生活の指導の他の項目にどのように活かしていくかは残された課題と言える。

また本校で作成されたキャリア教育表を見ながら、日常生活の指導との関連をどうつけていくか。役割や社会生活の理解だけでなく、物事を選び取ったり、周りの人と関わったりする力をどのような視点で伸ばしていけるかが今後の課題となるであろう。